

NPOと行政の協働事業自己チェックリスト集計表(子どもの心を受け止めるネットワークみえ)

. 協働の前提		三重県生活部NPO室	MIEチャイルドラインセンター
1	地域の将来像と事業とのマッチング	はい	はい
	[ビジョン]	NPOと行政が、「子どもの心を受け止めるネットワークみえ」として協働事業体を組んで、具体的な事業に取り組み、そこで得られた成果を、行政は施策に生かし、NPOはそれぞれの活動に生かしていく。	
2	協働の形態	はい	はい
	[現在の協働の形態]	「子どもの心を受け止めるネットワークみえ」というネットワークを構築してそのなかで具体的な事業として実施していくことが望ましい事業については、青少年・私学室が事業として実施している。	
3	対等な関係		
	役割と責任	はい	はい
	コミュニケーションと合意形成	はい	はい
	意思決定と指示系統	はい	はい
. 事業			
1	事業の目的	?	はい
	[事業の目的]	協働事業体として具体的な事業を実施し、その過程と成果を共有することで、それぞれの施策や活動に反映させ子ども心を受け止める仕組みを、市民発で構築していくことを目的とします。	
2	事業の成果	はい	いいえ
	[事業の成果目標]	「子どもの心を受け止めるネットワークみえ」は、行政の子どもに係する部署とNPOが協働事業と一緒に実施することでネットワークが構築され、子どもが安全に安心して育つ地域社会づくりを目指しています。 これは、市民発の事業を行政に反映させる「NPO(ボランティア・市民活動団体等)からの協働事業提案」として採択されたもので、成果目標はこの事業からNPOと行政の協働仕組みを見出ししていくことを成果にしています。平成15年度に採択され、検討期間を十分にとり、具体的な事業でも成果が見えてきています。また、NPOと行政が事業を進めていくための様々な障害や方策について話し合うことができています。これまでの検討内容は、提案制度の改善につなげ、県政運営の基本理念である「新しい時代の公」のモデルとして紹介されています。ここでえられた成果は、どこまでNPOと行政が、一つの課題に向かって協働していけるかを示すモデルとして十分に期待ができます。	
3	成果の帰属	はい	?
	[具体的成果(物)]		
	[帰属]	協定書でNPOと行政のそれぞれに帰属することを明記しています。	
4	事業の完了時期	はい	はい
5	事業後の展望	はい	いいえ
	[事業後の展望・方向性]	「子どもの心を受け止めるネットワークみえ」として構築したネットワークの今後については、話し合いを始めているが先行きについては不透明な部分が多い。市民の考える「子どもへのかかわり方」と行政の考える「子どもへのかかわり方」には隔たりはまだかなり大きいと感じている。しかし、もう少し長いスパンで考えて、この具体的な事業から生まれてくる成果が社会的にも認知されてくれば、行政とNPOが役割を担い合う関係に育っていくのではないだろうか。それには、具体的な事業へ県職員がボランティアとして参加し、より踏み込んで具体的な事業が持つ意味を把握することが必要と考えられる。また、行政側として資金的な援助がなくなった段階で関係性が見いだせなくなるということが今後継続していく上で課題となっていくように思われる。 これまで、「子どもたちの心の居場所」をつくるために具体的な事業は展開されてきており、その社会的な役割を、NPOも行政も今後どうしていくか話し合っていくかといかないと思ふ。 「NPO(ボランティア・市民活動団体等)からの協働事業提案」の採択として3年という条件があったため、今年度の9月をもってファシリテート事業は終了することは合意ができている。この対等性を保障した場がなくなることで、今後のネットワークの意義を考慮して、どのように継続していくかを検討する必要があると思ふ。	
. 事業実施体制			
1	業務分担	いいえ	はい
2	費用分担	いいえ	はい
3	情報共有	はい	はい
4	問題発生時の体制	はい	はい
5	スケジュール管理と進捗確認	いいえ	はい